第2回
ガロ・コミック大賞
大募集

大賞…賞金30万円　優秀賞…10万円　佳作…5万円

審査…本誌編集部

**ガロは新人作家の登竜門として
あらゆる可能性を秘めた才能発掘に
力を注いでいます。
独創性があり説得力のある
作品を大募集致します。**

応募要項

■応募資格

○資格不問

■作品内容

○商業誌に未発表のオリジナル作品であること。

○必ずペン入れをした完成作品であること。

○コピー原稿不可。

○ジャンル不問。

■ページ数

○原則的には4P〜40P。4か8の倍数が基本。

■原稿の描き方

○寸法、天地270ミリ×左右180ミリ

○ペンは墨一色であれば何を使ってもOK。但し、鉛筆、ボールペンは不可。

○ネーム（セリフやナレーションなど）は鉛筆書き。

○絵柄やスミベタの上にネームがかかる場合、トレーシングペーパーをかけた上に鉛筆書きすること。

○原稿には必ずページ数を記入。

■注意事項

○原稿の最終ページの裏面に、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記のこと。過去に商業誌に作品を掲載された方は、その誌名、作品タイトル、発表年月日も記入のこと。

■原稿の返却

○応募者は全員必ず、該当料金分の切手を貼付した返送用封筒を同封して下さい。封筒には自分の宛先も必ず記入。それ以外の応募原稿は一定の期間後、破棄させて頂きます。

■募集期間

○1998年6月1日〜10月31日（それ以降に到着した原稿は第3回に回します）

■大賞発表

○本誌1999年2月号

■作品の掲載について

○可能性のある作品については「入選作品」として、随時掲載していきます。その際は弊社規定の原稿料をお支払い致します。

■その他

○入賞作品の版権は㈱青林堂に帰属します。

■応募先

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16-20 テラス南平台102
㈱青林堂「第2回ガロ・コミック大賞」係

直接、持ち込み希望の場合は
編集部直通電話　03-3780-9819 まで。
電話受付時間　12時〜6時（月〜金）
必ず事前に来社予定日を予約して下さい。

夏への批評

最後尾のエヴァンゲリオン論

大塚英志

第六回

内沼鑑定が、宮崎勤の被擬事件である四件の誘拐殺人事件に関わる供述に「おおよそ共通のパターン」があることを指摘している点については既に触れた。その共通パターンとは以下のようなものである。

＜①幼女と出会って車に乗るまでの間の、子供の頃に河原で観楽客(原文のママ)からジュースの缶などを盗んだ時に感じたのと同じような懐かしいスリルの感じと隠れん坊気分の時期、②自動車で幼女と二人になった時の甘いドライブ気分の時期、③自動車を降りた後の山道でのピクニック気分の時期、④幼女が泣いた時に殺害しているが、その際の「ネズミ人間」出現の時期、⑤「ネズミ人間」に襲われると思って、おっかなくなって家に自動車で飛んで帰った時期、⑥家に帰ってから自室でテレビ作業・ビデオ作業をしている時期＞

供述が「共通パターン」に収斂していく、ということは言うまでもないことだが事件そのものがパターン化している、ということではない。事件を言語化する彼の供述が「パターン化」されているのであり、それは、逆に言えば彼の言説が徹底して個別化を拒むからである。

それは鑑定人となされたという以下のような会話にも顕著である。

＜「難破絵梨香という名前は憶えていますか」

警察で初めて知った。みんな向こうが教えてくれる。

「最初の事件の子の名前は何ていうの」

わかんない。

「警察ではなんて教えられましたか」

ニュースで今野なんとかと言っていた。警察はニュースのことを聞いてんのかと思った＞

この部分のみを抜き出すと宮崎勤があたかも犯行を否認しているようにとれる。公判の弁護人とのやりとりに於ても彼が何故か被害者の少女たちの名前を弁護人が口にすることを拒み「あるひとりぼっちの女の子」と弁護人は彼女たちのことを形容しなくてはならなかった。宮崎勤はしかし繰り返すが犯行を否認しているのではない。ネズミ人間による殺害、という形ではあるが、認めている。遺体の消却等についても同様だ。にも関わらず彼は、殺した幼女たちの名前、つまり個別性を拒むのである。

こういった個別性の拒絶はしかし幼女たちに対してのみなされるわけではない。そのことと関連して興味深いのは内沼鑑定が宮崎勤の「貰い子妄想」について指摘していることだ。

宮崎勤は祖父が死亡し、火葬に立ち会った際、祖父が灰となって出てきたことに衝撃を受け「ぴーんとわかった」と述べる。何がわかったと言えば、自分が貰われたのか拾われたかしたに違いない、という確認である。

宮崎勤は手に障害があり、他方、宮崎家は情緒障害の男性や視覚障害のある者を子守や印刷工場の従業員として雇い入れている。そのことを宮崎勤は「克己(父親)は啞や盲を拾ってくる。私もひろってこられたのだ」と述

EVANGELION

べたという。（「啞や盲」という表現には相応の配慮が必要であることは承知しているが彼のことばのままに敢えてそう表記する。）

彼は自分が貰い子である、という根拠の一つに父親が自分の手の障害に対し何ら具体的な配慮（手術なり、リハビリといった）をしてこなかったことをあげる。そこから彼が従業員として招き入れる障害をもつ人たちと自分は同じようにたまたま父親に雇われてきたにすぎない、と確信するに至るのだ。

こういった貰い子妄想は精神医学者の木村敏によれば、極めて日本的な妄想の類型ということになる。自分の両親や家族が本当の家族ではなく、本当の家族はどこか別の場所にいるという「来歴否認」そのものは西欧にも見られるが、その場合は血統妄想といって、自分の本当の家族を王家や貴族など高貴な血筋に結びつけるなど「本当の家族」の血統がより具体的に妄想として肥大する傾向にある。それに対し、日本型の貰い子妄想は、ただ、父親、母親との関係を否認することに妄想の主張の中心がある。

＜「宮崎君は本当の両親が別に居ると思っているの」

うん。

「間違いないですか」

うん。二人別々に暮らしている。

「会いたいですか」

うん。どうかなあ……。本当は一人で暮らしたい。会うのは会ってもいい。＞

「本当の両親」は、彼の言説の中では一切、具体性を持たない。というより、ある段階から具体性を喪失する。

こういった、自分と関わりがあった人間から個別性を剝離させることを宮崎勤は「知人感覚になる」と形容する。学校関係の「友人」やビデオコレクターの「仲間」が祖父の死の前後から、例えば「ビデオ仲間」は「ビデオ知人」と化し、「名前、顔つき、体格をすぽっと忘れ」てしまう。鑑定ではこれを「生活失健忘」の証左としているが、ぼくは精神科医ではないのでそこにはふみ込まない。

祖父の死を堺に、宮崎勤は家族、友人、そして殺害した幼女に至るまですべからく「知人感覚」の、個別性が剝離した存在として見なすようになる。あるいは個別性を拒むようになる。そのようなものとして世界を認識する。

それでは彼の世界像の中で「個別性」は一切、忌避されているのかと言えばそうではない。

＜「宮崎君はおじいさんと血はつながっていますよね」

うん。

「おばあさんとは、どうでしょう」

考えたことない。＞

奇妙なことに彼は死んだ祖父とのみ血縁を認めるのである。その一方で「真の両親」を想定していることは明らかに論理的には破綻しており、鑑定医とのやりとりでそこをつかれると沈黙する場面もある。

したがって重要なのは、真の両親を妄想することではなく、祖父以外の人間を「知人」化することである。

それでは唯一の血縁である祖父はどう認識されているのか。

＜「宮崎君は昭和天皇の葬儀の新聞を大切にしたんだったね。」

違う。あれは、おじいさんの葬式。＞

彼は祖父が昭和天皇だといっているのではない。それでは血縁妄想である。

そうではなく、新聞やテレビの中で行われた葬儀は「おじいさんの葬式」である、と主張するのだ。昭和天皇の葬儀という磁場の中で、彼の祖父はかろうじて「知人」化しない。

それは昭和天皇の死の前後の奇妙な時間が、幼女たちが「相手性」をもった人間に変容する前の「甘い」「ピクニック気分」の時間と質的に同一だからではないか。そのような場に於いてのみ、他者はかろうじて認識の対象となる。（つづく）

漫画の迷い道 第七回

ねこぢる追悼

唐沢俊一

いま、この段階でねこぢるとその作品を語ることに、大きな抵抗を感じている。しかし、いま、この状態のうちに語っておかないと、という気持ちも大きい。

時間というものは、やがてねこぢるとその死、という事実を僕自身の中で整理分類し、その意味するものを客観的に語らしむることになるだろう。それはマンガ評論を職とするものとしていつか、やらねばならぬことなのだが、未整理、未検討のまま、ここで言い置いておかないとこぼれ落ちてしまいそうな感想が頭の中で充満している。

ねこぢるの作品を読んでいつも感じたのは、計算されつくした悪意というものだった。夫であり原作者の山野一単独の諸作品に見られた、剝き出しの、どうにもやるせない悪意に満ちた描写やストーリィが、いったん、可愛らしい猫の行動として描かれることで表面的にコーティングされ、そこに描かれるのがさらにディープな悪意であっても、一般の読者は気がつかず、ちょっとしたブラックなユーモアとカン違いして受けとってしまう。

その勘違いを最初から見越して、マンガを笑っている読者を、まるでマジックミラーの裏から容疑者の様子をのぞいている刑事のように、原稿用紙の裏からニヤニヤと人の悪い笑いを浮かべて見ている作者たちの、もう一段ひねくれた悪意を、いつも静電気のように感じて、首筋あたりの毛がゾゾッと逆立つのを覚えたものだ。

しかし、いくらその作品中に悪意があろうと、それが天然でなく計算されたものである限り、他者によるコントロール、無害化は可能である。マスコミにとってその手管などはお手のものであろう。そして、そうであればこれだけの才能を見逃すはずもなく、ねこぢるのキャラクターはありとあらゆるメディアに表出していった。某電気会社のCMに使われたキャラを見てカワイイ、と思い、ねこぢるの単行本を買ったある知り合いの女性ライターは、その内容に仰天して、

「あの会社の人間たちはねこぢるのマンガを読んだことがあんのか？」

と、僕のところに深夜、電話をかけてきた。

「なにか、すっごいカン違いしてんじゃないだろうかねえ」

それを聞いて僕は大笑いしながらも、

「いや、消費社会というのはそれが通ってしまうオソロしいところなんだよ。ねこぢるをキティちゃんと同列で売る、なんてことに何の疑問も抵抗感じないようにならんと、代理店なんてやっておられんのじゃないかね」

と答えた。そのとき、そういうメディア社会の歯車の中に、己れが当の社会に対して吐いた怨念を無視されて巻き込まれていくねこぢるの、創作家としての悲劇が頭の中をかすめないではなかったが、

「この世界ではありがちなこと」、

という諦念のようなものが、この社会で年を食いすぎた僕の胸のうちにはあり、やがてねこぢるの毒もその中で薄まっていかざるを得ない、それは悲しいが、マンガ家といえどメディアの路線の中で食べていくのだから仕方がないなどと、ぼんやりと思っていた。その、世間と自分との折り合いをつけていくことが、作家としての、〝ある種の〟成熟である、と考えていたことは事実である。

実際にその板ばさみの中で彼女が（いや、山野も含めて）どれほど傷ついていたか、それは同業者というのみで親しいつきあいもなかった僕にはわかる道理もなかった。

ねこぢるが突如われわれの前から消え去ったあと、ある雑誌の女性編集者に、こんな話を聞いた。

「亡くなるひと月ほど前、原稿依頼をしようと思ってお電話したら、ねこぢるさんが出られて、〝自分はもう、好きなものしか描きたくない。お金になるとか、そういうことじゃなく、描きたいものだけを描いていきたい〟と、現状への不満を二時間、えんえんと聞かされました。いかにも誰かに聞いてもらわないとたまらない、といった感じで、仕事を引き受けてもらえないのならすぐ切ってもよかったんですけれど、あまりそのことを真剣にお話しになるんで受話器を置けなくて、二時間、それを聞き続けてクタクタになりました」

その思いを、そのとき連載していた雑誌の編集ではなく、初めて電話してきた未知の編集者（それも同性の）にしか語れなかった、というあたりに、自分の作品が自分のものでありながら、自分のものでなくなっていく、その過程での作家の悲劇というものがかいまみえて、何か僕はやりきれない思いで一杯になった。

「おわかりでしょうか？（赤の他人である読者のために）自分の創造した世界を破壊することの苦しみを……（中略）やがてその苦痛も慣性になり、苦痛を苦痛と感じなくなったとき、もはや、いやすべもないほどに、心が傷つき、むしばまれてしまっていることに気づき、ガクゼンとすることの恐怖を……」

　これを誰の言葉とお思いになるだろうか。あの、メディアの寵児とも、マンガ黄金時代の代名詞とも言われる石ノ森章太郎の言葉なのである。一九六六年、『続・マンガ家入門』の中で、これからマンガ家を目指す少年たちに向けて語った、売れっ子マンガ家と呼ばれる職業の、光の当たらない、影の部分での真実の叫びである。

　われわれマンガ業界に身を置くもの、いや、いやしくも自らの創作の才をもって世に望み、読者（受け手）に対し技術と己れを問い、その彼我の間に自己の立ち位置というものを見いだしていこうとするもの全てにとって、これは誰もが直面せねばならぬ問題と言えるだろう。

　大衆という、創作者の魂を常に貪欲に欲するメフィストフェレスとの拮抗こそが、作家の前に立ちふさがる最も大きな関門なのだ。

　ねこぢるは、その戦いに疲れきっていたのではないか。

　ガロという、ある程度そういう戦列から離れた天地で作品を産み出していた作家にとって、その拮抗は他所の出身の作家以上に、心身をすり減らすものだったのではないか。

　同業者たちと、その後電話で話すと、当然のことながらねこぢるの話になった。

「痛いよ。ギャグの人がそういう風に死ぬのは痛いよ。いまの雑誌は、ギャグの人をなんだと思っているんだろう」

　と憤った人もいた。

　……僕はこの稿で、ねこぢるの作品について、もっと踏み込んだことを書かねばならなかったかもしれない。だが、とにかく、今はこのような雑感のみで頭がいっぱいなのだ。最後に、あるベテラン作家が電話口で、

「仕事、しすぎたんじゃないかねえ」

　と言ったあと、自分に言い聞かせるように言った言葉をもって、彼岸の地の彼女に贈る言葉にしたい。

「逃げればよかったんだ。逃げたって、マンガなんだ。バチはあたんないんだ。でも、ねこぢるは逃げられなかったんだ。最後まで、自分を苦しめようとしたんだ。それは彼女が本当に創作というものをわかっていたからだろうと思う。それだけに、ツライねえ」

　……心よりご冥福をお祈りしたいと思う。

（文中敬称略）

「ねこぢるうどん」より　©ねこぢる

ガロチェア

今月のイラスト
世田谷区／杉作J太郎さん

ルリちゃん

●新人漫画特集ということで期待をしていたのですが、なるほどねぇ、良くも悪くも完成度の高い作品が揃っていて、読み応えがありました。大賞・佳作とも該当作品なしとのことですが、まあ妥当なところかな。
　それぞれの作品、皆、今後何か波瀾を起こしてくれそうな予感を感じます。次の作品に期待させるところ大です。
〈千葉県／エイビー〉

●もっと新人作家やいろいろなジャンルの作家の作品が載ると面白いです。やっぱりガロは、実験場でいいんだと思います。読み手のことなど気にしてない漫画でも何でも載せて、実験していけば、はずれることが多いかもしれないけど、すごいものがでてくることもあると思います。
　それと、最近、漫画評論家の解説が必要なくらいの難解な漫画がないのも気になってます。評論家達の解説、評論対象は昔の漫画ばかりになってます。世間を引っ張ってこそのガロです。世間に流されてはなりません。
〈東京都／Y・S〉

読者の声 & お便り

●毎日新聞に紹介されていた『マーマーフーフー』が読みたくて初めて買ったのですがとてもおもしろかったです。『ガロ』というと、ちょっととっつきにくくて、特別な人達の読むマンガというイメージが強かったのですが、それがなくなりました。読ませる話が多かったです。6月号の片岡聡先生は何か心に残るものがありました。もう少し読んでみたい感じです。QBB先生のは、むちゃくちゃ笑いました。子供の頃、よくこんなの考えたよな、と懐かしかったです。
〈奈良県／M・K〉

●作品が不足している時は、他の企画を掲載するなどして、他誌にない傾向の作品だけが並ぶようにすると、すっきりして読みやすいと思います。
〈神奈川県／K・I〉

●復刊以来、初めてのガロ大賞なので、楽しみにしておりましたが、今回は該当作品なしという事で、少々淋しい気もしますが、入選作品を一読した限りでは編集部諸兄のご判断は正しかったものと思います。
　総評にも「物語性の放棄」が叫ばれていますが、現在主流の漫画はその大半がいわゆるストーリーマンガである事を踏まえれば、これはいささか嘆かわしい傾向であると私自身も痛感します。
　どうか来年の大賞発表の誌面には、画力とストーリーテリングが高い次元で融合した素晴らしい作品があふれることを願って止みません。
〈東京都／Y・A〉

●7月号のガロチェア欄で、町野変丸先生のマンガに「もっと実用に使える描写にして下さいまし」というご意見がありましたが、今月の『日常』は充分実用に値する傑作だと思います。まあ、A・Kさんは縛り系がお好きなようですが、僕は町野先生のよく描かれる巨乳ロリ顔系にめちゃ弱いので、その辺の好みの差もあるのでしょうが。
　あと、入選作品の『工場』はすごい。105ページの鬼が「何か用か」と言っているところの、1ページまるまる使った絵のインパクトは、三本義治先生以来と言っても過言ではないと思います。せめて佳作にしても良かったんじゃないかなあと思うのですが、僕の批評眼が甘いのでしょうか？
〈宮城県／N・O〉

●生意気なようですが、コミック大賞について意見を書きます。
　半分くらいの作品はガロで読めてうれしい感じの漫画なのですが、半分くらいの作品に対し、悪い意味で読んでいて不愉快な気持ちを覚えた。ガロで育って花を咲かせるような人の漫画を載せて下さい。他のメジャーな本や雑誌でも人気出ちゃうような子供だましの作品、いやです。
　ガロで私の好きになる漫画は、いい意味で暗いような、説得力のある、少し切なくアレな作品です。皆が皆そうは思わないと思いますが、これが私の考えです。私も漫画描いてます。
　あと、作者の一言みたいなコーナーがあったらおもしろいと思いますが、いかがでしょうか？
〈東京都／H・W〉

●新しいガロは、前から知ってる作家さんも沢山載っていますが、それに混ざって、なんでこんな作品を選んだんだろうって思う作品もあって、すごく極端なような気がします。
　まだ、5・6月号しか買っていませんが、とりあえずまた購読していこうかと思っています。
〈大阪府／R・S〉

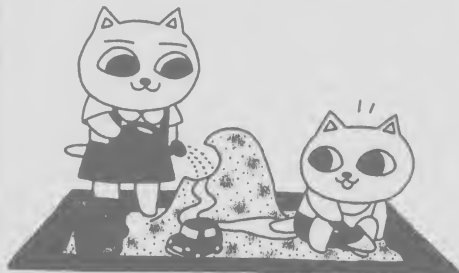
追悼 ねこぢる先生 読者からのメッセージ

◎ねこぢる先生の突然の急逝から数日後、ガロ編集部にも、読者の方々から先生を惜しみ悼む声が寄せられました。ぜひ、追悼特集を組んでほしいとの声も当然の如くありました。その時、本誌では訃報として一頁とっただけでした。読者の方々にしてみれば不満が残ることとも充分承知をしております。仰々しく特集を組むことはいたしませんが、ここに読者から寄せられた、故・ねこぢる先生に対してのメッセージを紹介することで、追悼とさせて頂きます。　（編集部）

●5月にレコード店へ行ったら、ねこぢる先生のCDROMが出ていたので見ていたら、ポスターにねこぢる先生が他界されたことが書かれていました。しばらくは何かの間違いでは?と思っていたのですが、今月号のガロを見て事実なんだと理解することが出来ました。悲しいけれど、ご冥福をお祈りします。

最後にもう一度、作品が見られたらいいのですが、ムリなら、ねこぢる先生に関する何らかの特集をしてもらえたら…と思います。

〈大阪府／T・K〉

●バカ、バカ、ねこぢるの大バカ!! なんでいなくなったんだよぉ!! 新聞で訃報を知って、大泣きしたんだぞ！

もう「にゃーこ」と「にゃっ太」にはあえないの!? なんで!? どうして!? あんたなんか、大キライ!!……それほど好きです。ホントは。

安らかに眠って下さい。

ねこぢるさん表紙の98年2月号、5月号は、「宝物」です。ねこぢるさんと同じ本に、私のアンケートが載ったんだもの……。バイバイ、ねこぢる先生！ いつまでも忘れないよ！ 大好きだよっ!!

〈千葉県／K・Y〉

●私、今月号は、絶対にねこぢるさんの特集だと思ってました。でも、中間に1ページと裏表紙に1行だけ。ちょっと悲しいです。ねこぢるさん、山田花子さん、私の大好きなマンガ家の中の1人なのに。

今月号はショックです。

〈栃木県／Y・S〉

●私は、ねこぢるマンガが大好きです。

つい先日、東京に遊びに行ったときもタコシエでねこぢるさんの新しい真っ赤なTシャツを見つけ、嬉しくてすぐ購入し、翌日はそれを着て街を歩きました。

そしたらお香屋さんの若い女性の店員さんから「ねこぢるのTシャツって出てるんですね」と笑顔で話しかけられました。きっとその女性もねこぢるマンガが大好きなのでしょう。

それから、おこがましくて恐縮ですが、私の顔が「にゃーこちゃんに似てるね」と周りの人に何度かいわれたことがあり、とても嬉しく思っています。でも、眉毛が極端に薄いので、「化粧を落とすとにゃっ太だね」とも言われて、ちょっと悲しいけれど、やっぱり嬉しかったものです。

そして3年程前、私が入院した時、病室でTVブロスを開くと『ぢるぢる旅行記』に、ねこぢるさんも入院されたと描かれており、大変驚き、そして勝手ながら他人じゃないような気もしてきて……。それ程、私にとってねこぢるさんは身近な存在でした。

昨日の朝、新聞に小さく載ったねこぢるさんの記事を見た時は、とても信じられませんでした。まるで嘘みたいな気がして涙も出ませんでした。でも一夜明けた今日、もう一度冷静にねこぢるさんの事を考えたらさみしくて涙が止まらなくなりました。片目をぺたんとつむったような、物足りない気持ちが今も続いています。

〈北海道／C・S〉

●ねこぢる先生が亡くなったと知って、とても残念な限りです。生意気なのに、なぜか憎めないネコが可愛くて好きでした。本以外の活躍も期待していたのに…。

〈大阪府／K・U〉

●必ず「ねこぢる特集号」をお願いします。もはや少なくなってしまった本当のガロ系作家だと思うのでこういう形でのお別れはとても残念です。しかし、ねこぢる先生ほどの人が決めたのだから何も言えません。心より冥福を祈ります。そして感謝します。青林堂の方々、山野先生を応援して下さい。お願いします。

〈東京都／Y・S〉

●5月号の表紙がねこぢるさんで、買っときゃ良かったと今、後悔。ショックでたまらない。内容はちょっとブラックめでも、もうあの猫たちが時間を止められてしまったかと思うと、とても悲しい。

〈神奈川県／寿々夢〉

みうらじゅん&泉昌之プロデュース

いい味 Bob Dylan 展

場所：アートワッズ（渋谷区宇田川町宇宙百貨内）
TEL：03-3770-1929
日程：7月5日(日)まで 11:00～20:00
出品者：安斎肇・久住昌之・泉晴紀・みうらじゅん他

●

トークライブ

幼稚な大人達

本物の幼稚な大人達が、新しくなったロフトプラスワンに大集合!!
出演：久住昌之・滝本淳助・ワカ他
場所：ロフトプラスワン（JR新宿東口より徒歩4分、コマ劇場前）
TEL：03-3205-6864
日程：7月4日(土) 18:30 オープン
料金：ビール＋おつまみ1000円より

●

夏休みタコシェフェア

伊藤潤二原画展
富江シリーズやホラーコメディ双一シリーズでおなじみの原画展示に加えて、カットやラフ色紙、グッズの販売を行います。
日程：7月18日(土)～31日(金)
12:00～20:00

たまの夏祭り
現在では入手困難なテープやレコード、書籍、記念Tシャツが勢揃い。メンバーの絵画や手工芸品も販売します。
日程：7月24日(金)～8月31日(月)
12:00～20:00
場所：タコシェ（中野駅北口徒歩4分）
TEL：03-5343-3010

●

関西唯一!!

夏のタコシェ祭り

東京中野の「タコシェ」が扱っている同人誌・原画・テープなどが大集合！
場所：ART-BOX アンフェール（恵文社一乗寺店内）
TEL：075-711-5919
日時：8月4日(火)～14日(月)
12:00～22:30（日祭日は朝11:00より、最終日は20:00まで）

●

末弥純・ファンタジー アートの世界

ゲームキャラクターデザイン、小説の挿し絵を手がける末弥純氏初めての原画展。
場所：パステルミュージアム
TEL：03-5410-6445
日時：7月28日(火)～8月3日(月)
11:00～19:30（最終日は17:00まで）

●

ネオ演芸集団 HIGHLEG JESUS 公演

『男がいて、そして女がいて……』

場所：ウエストエンドスタジオ
TEL：03-3319-5645
日時：7月9日(木)・10日(金) 19:30～
11日(土)・12日(日)14:00～、19:00～
13日(日)19:00～
料金：前売り2500円、当日2800円
問い合わせ：03-3331-9379

注目シネマ＆TV

石井輝男ワールド

映画「ねじ式」公開を記念して石井監督作品をレイトショウ！
場所：BOX東中野
TEL：03-5389-6780
時間：連日21:10より1回上映
料金：1300円（当日券）
『ゲンセンカン主人』
日程：7月4日(土)～10日(金)
『無頼平野』
日程：7月11日(土)～17日(金)

●

久住昌之がホームページの作り方を教えちゃう!!

NHK教育テレビ「趣味悠々・ホームページはむずかしくない」で、久住昌之氏が西村知美ちゃんと一緒に番組を進行していきます。全9回を見終わる頃にはあなたの趣味もホームページ作り!?
日程：7月1日(水) 20:00から全9回

●

PFFアワード準グランプリ受賞作品

鬼畜大宴会

弱冠23歳、天才のよび声高い熊切和嘉監督作品。70年代を舞台に学生運動グループ内の対立と崩壊をエネルギッシュかつ繊細に描く。東京公開を皮切りに10月中旬には大阪(扇町ミュージアムスクエア)、11月中旬に名古屋(劇場未定)と続く。
場所：渋谷ユーロスペース
TEL：03-3461-0211
日程：8月8日(土)よりロードショー

BOOK情報

●一般読者から寄せられた実話を田島みるく先生がマンガ化した『本当にあった愉快な話⑥』（竹書房・定価620円）。あなたを爆笑マシーンに変身させちゃう。
この本を3名様にプレゼント。あて先は本誌編集部まで。締め切りは、7月末日。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

●小林じんこ先生の「風呂上がりの夜空に」復刻版（全5巻／定価・各900円）が、ぶんか社より刊行される！　あの学園コメディーを愛蔵版で読もう！　今回、5巻セットをサイン入りで2名様にプレゼント。あて先は本誌編集部まで。7月末日締切。発表は全5巻刊行次第（9月下旬）発送に代えさせていただきます。

●松本充代先生の新刊がアスペクトから発売されました。『ドロップ・バイ・ドロップ』（定価：本体千円＋税）。この作品は九六年『月刊コミックビーム』に連載されていた長編をまとめたもの。

この本をサイン入りで五名様にプレゼントいたします。あて先は本誌編集部まで。締切七月末日。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせて頂きます。

新商品情報

日野日出志グッズ

日野日出志先生のタッチがそのままにいかされているすっげえTシャツが出来た。カラーは黒・白、サイズM・S。絵柄は地獄小僧とモンスターヒーローの2つ。各3300円。限定300枚！

問い合せ：有限会社タコシェ　TEL：03-5343-3010

●鉄人28号

世界中に多くのマニアが存在し、大きなブームを起こしているのが「鉄人28号」。世代を越えた人気を誇るスーパーロボットが、アクションフィギュアとして登場しました。対象年齢は13歳以上。違いの解る大人のあなたに。今回はこの「鉄人28号」を読者3名様にプレゼント。あて先▽ガロ編集部「鉄人28号」プレゼント係。7月末日消印有効。当選は、発送をもって代えさせていただきます。

発売元：（株）メディコム・トイ
問い合せ：1/6計画　TEL：03-3467-7676
定価：2980円（税別）

金田正太郎フィギュアつき。©光プロ

青林堂掲示板

尋ね人

ニシタケアキラさん!!

キクチヒロノリオリジナルTシャツ代金として6100円を振り込まれたあなたです。申込用紙が届いておりません。至急ご連絡ください。

●

お詫び

花くまゆうさく著「労働2号」について

かねてより告知をしてまいりました『労働2号』ですが、諸般の都合により、発売を見送らせていただきます。著者及び関係者、読者の方々にご迷惑をおかけしましたことを、ここにお詫び申し上げます。

編　集　部　か　ら

ガロチェア投稿規定

漫画の感想、意見などは1200字以内（原稿用紙／ワープロ可）で「ガロチェア／お便り係」までお寄せください。ペンネームを使用される場合でも、住所・本名・年齢・電話番号を明記ください。(明記の無い場合は掲載を見送る場合があります。)

文通希望、募集、ライブ、演劇他の情報は、規定用紙（コピー可）に記入の上、「ガロチェア○○係」まで封書でお送りください。
記載は抽選で、必ず掲載されるとは限りませんのでご了承下さい。

情報、お便りの〆切は、全て毎月８日（８日が土日祝の場合は前日）必着です。
情報などのスケジュールを告知される場合は御注意下さい。
アンケート（プレゼント付きの場合も含む）の〆切は毎月末日です。

宛先：〒150-0036　東京都渋谷区南平台町16-20 テラス南平台1F ㈱青林堂

本などのお買い求め

コミックスなどは書店さんにご注文下さい。

定期購読

月刊「ガロ」は全国どこでもお近くの書店さんにてお買い上げ頂けます。書店さんの店頭に在庫が無い場合でも、「毎月取り寄せお願いします。」とお申込み下されば発売日に入荷します。

漫画投稿時の注意

編集部に直接漫画の持ち込みをなさりたい方は、必ず前日までに編集部にあらかじめ予約のご連絡を頂いた上で、お越しください。

郵送でも投稿は受け付けておりますが、返却希望の方は必ず返信用封筒に当該料金分の切手を貼付したものを同封下さい。返信用封筒を同封されない作品の返却は、原則として行いませんので御注意下さい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・キリトリ線・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

★情報掲載用原稿用紙★
＜コピー可＞

□文通□募集□演劇□ライヴ□映画□その他（　　　　）

※封筒の宛名に、「ガロチェア○○係」と記入して下さい。
※文通・募集などの直接交渉の情報には、ペンネームは使用できません。

住所 〒□□□-□□□□

氏名　　　ペンネーム　　　電話番号　（　　）

性別　男／女　　年齢　　ご職業／学年

※ペンネーム使用の場合も必ず本名と住所等を記入してください。

1998年8月号 アンケート用紙

下記の用紙を点線に沿って切り抜き(コピー可)、アンケートの答えを記入し、Aはハガキの表面に、Bはハガキの裏面に張り付けて郵送して下さい。アンケートをお寄せいただいた方の中から抽選で20名様に青林堂オリジナルグッズを差し上げます。

Aはオモテに貼ってね➡

A

住所	〒 電話番号	
氏名	フリガナ	ペンネーム 年齢 性別
購入された書店 地名　　　/書店名		あなたはガロ購読歴何年ですか?

□□□-□□□□

A

B

8月号アンケート用紙

1. どの作品が読みたくて購入されましたか?

2. 今月号で面白かった作品3つと、その理由を教えて下さい。

3. ガロ以外に購読している雑誌は?

4. 今後ガロで読みたい作家、企画はありますか?

Bはウラに貼ってね➡

B

宛て先はこちら!

〒150-0036
東京都渋谷区南平台町16-20
テラス南平台1F
TEL 03-3780-9820
FAX 03-3780-9815

(株)青林堂

青林堂出版物一覧表

※印のある書籍は品切れ中です。著者50音順です。表示価格は全て税抜きです。

※書名がゴシックのものは上製本です。

▼谷 弘兒
- **薔薇と拳銃**　¥1165　※

▼月岡直美
- セクシー＆ビューティ　¥951

▼津野裕子
- 雨宮雪氷　¥971

▼東陽片岡
- やらかい漫画　¥951

▼とがしやすたか
- **青春劇場**　¥854

▼友沢ミミヨ
- いもほり　¥951　※

▼とり・みき
- とりのいち　¥951　※
- とり・みきのもう安心。　¥951　※

▼ねこぢる
- **ねこぢるうどん**　¥971　※
- **ねこぢるうどん②**　¥971　※

▼根本敬
- 怪人無礼講ララバイ　¥854　※
- 豚小屋発犬小屋行き　¥1165
- ディープ・コリア　¥1456
- 生 き る　¥951　※
- 生 き る ②　¥951

▼鳩山郁子
- スパングル　¥951

▼花くまゆうさく
- 野 良 人　¥951

▼花輪和一
- 赤ヒ夜　¥951
- 猫谷　¥951　※
- 月ノ光　¥1165

▼林静一
- **PH4.5ｸﾞｯﾋﾟｰは死なない**　¥2800　発売日未定

▼ひさうちみちお
- **托 卵（たくらん）**　¥1262　※
- **パースペクティブキッド**　¥1456
- 唄の上手な娘　¥971

▼古川益三
- **邪尼曼陀羅**　¥1204　※

▼古屋兎丸
- **バレボリ**　¥1262

▼松井雪子
- 東京デビュー<上>　¥854
- 東京デビュー<下>　¥854
- マヨネーズ姫　¥971

▼松本充代
- ダリヤ・ダリヤ　¥854

コミック

▼東 元
- あなたに　¥854

▼安彦麻理絵
- メロドラマチック　¥951

▼井口真吾
- **Zちゃん**　¥1456

▼石川次郎
- みぃんなじろうちゃん　¥866　※

▼泉昌之
- かっこいいスキヤキ　¥1165　※
- 豪快さんだっ！　¥951

▼イタガキノブオ
- **ペーパーシアター**　¥971　※

▼内田春菊
- 春菊（改訂版）　¥951　※
- シーラカンスロマンスⅠ　¥806　※
- シーラカンスロマンスⅡ　¥806
- 闇のまにまに　¥854　※
- 南くんの恋人(新版)　¥728　※
- しあわせのゆくえ　¥854　※
- 凛（りん）が鳴る　¥854　※
- 愛のせいかしら　¥1165　※

▼蛭子能収
- 地獄に堕ちた教師ども　¥854　※

▼大越孝太郎
- 月喰ゥ蟲　¥951　※

▼岡本蛍＆刀根夕子
- おもひでぼろぼろ①　¥883
- おもひでぼろぼろ②　¥883

▼鴨沢祐仁
- **クシー君のﾋﾟｶﾋﾞｱな夜**　¥1800

▼ＱＢＢ
- 栄三＝金星人説　¥854
- とうとうロボが来た!!　¥951

▼近藤ようこ
- 妖霊星　¥951　※
- ホライズン・ブルー　¥854　※
- 猫っかぶりｾﾞﾈﾚｰｼｮﾝ上　¥874
- 猫っかぶりｾﾞﾈﾚｰｼｮﾝ下　¥874

▼逆柱いみり
- 象 魚　¥951
- 馬馬虎虎(ﾏｰﾏｰﾌｰﾌｰ)　¥1100

▼桜沢エリカ
- チェリーにおまかせ！　¥854　※

▼しりあがり寿
- **コイソモレ先生**　¥951　※

▼高信太郎
- 頭痛にコーシン　¥854　※

帖合印

ご注文数　冊

条件	著者	書　名	版元
定価　定価　円			株式会社　青林堂

お名前

ご住所

電話　（　　）

切り取り線

帖合印

ご注文数　冊

条件	著者	書　名	版元
定価　定価　円			株式会社　青林堂

お名前

ご住所

電話　（　　）

切り取り線

この注文書（コピー可）に
ご希望の書名を書いて、
お近くの書店へお持ちください。

（本が書店に到着するまで
２〜３週間かかりますので
あらかじめご了承ください。）

▼丸尾末広

月的愛人(ﾙﾅﾃｨｯｸ・ﾗｳﾞｧｰｽﾞ)	¥951	※
薔薇色ノ怪物（新装版）	¥951	※
夢のQ-SAKU（新装版）	¥951	※
ＤＤＴ	¥951	※
ナショナル・キッド	¥951	※
少女椿(新装版)	¥1200	※

▼みうらじゅん

はんすう	¥1262	
ﾎﾞｸとｶｴﾙと校庭で(新装版)	¥951	

▼みきわハン

ぱんこちゃん	¥854	

▼三本義治

マンガの本	¥1456	

▼山田花子

嘆きの天使	¥854	※
花咲ける孤独	¥951	
改訂版·神の悪フザケ	¥971	※

▼山野一

パンゲア	¥951	※
ヒヤパカ	¥951	※

▼吉田光彦

夢化色	¥1000	※

ガロビデオ

▼ライヴビデオ

テレグラムガロ	¥3107	※
ひさご	¥3495	※

▼根本敬原作 監督作品

因果境界線	¥1748	
さむくないかい	¥3689	

▼平口広美監督作品

ＡＶ魂	¥2893	

青林堂傑作シリーズ

A5版上製・本体各1204円

だめ鬼／村野守美	※
泥沼（どぶだめ）／村野守美	※
媚薬行／村野守美	※
龍神／村野守美	
港野郎にきをつけろ！／永島慎二	※
ブルーセックス／川本コオ	※
よさこい節／青柳裕介	
白い伝説／真崎　守	※
狂人関係③／上村一夫	
狂人関係④／上村一夫	

TACO ché

ワールドカップのチケットが入手できず、フランス行きをあきらめた人は、浮いたお金でタコシェで買い物をしてはどうだろう

●日野日出志フェアは今回も大盛況、ありがとうございました。原画、色紙の一部は継続してタコシェにて販売いたします。タコシェ・オリジナルTシャツ（柄は2種、色も2種）、オリジナル・ポストカード10枚セットもよろしく。

●**町野変丸『ヌルえもん』**（一水社）長らく品切れになっていたタコシェ一押しエロ漫画家のデビュー作が増刷となりました。変丸唯一の2巻からなる長編大河エロ作品。

●**キクチヒロノリTシャツ各種**／解説マン、ちくわ君、勉強君、バカの4種。各M、Lサイズあり。

●**鳩山郁子・新作銅版画：「九月の小さなモーター」「Old Lace with Buttons」「跳ウサギ」**の三種。初回入荷分はすぐに売り切れてしまいましたが、再入荷しています。Tシャツもあり

●CD－ROM：**「ねこぢるうどん2」**（大和堂）。ねこ神さま人形、Tシャツなど、ねこぢるグッズは売れ続けてます。

●映画「D坂の殺人事件」　ポスター丸尾末広による美麗ポスター。

●**石ノ森章太郎「スカルマンZIPPO」**石ノ森章太郎が亡くなる寸前まで、完成を心待ちにしていたもの。スカルマンのフィギアとZIPPOのセット。限定450、認定書つき。ゴールドとシルバーがあります。光の加減で変幻自在に色が変化する特殊なプリントによるジョーの肖像**「009特殊プリント」**もあり。こちらも限定450。

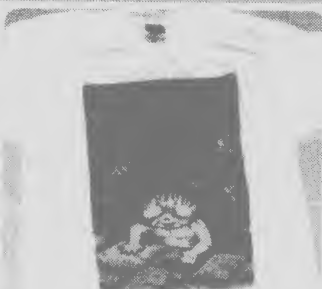
●**梅藤田玉子画集『死化粧の少女達』**ＭＡＣからフルカラーで出力した少女残酷画。一枚一枚台紙に貼り込んだ手作り画集。

●**「SMH」**11号　普段はフィギアを扱っている雑誌だが、今回は関節人形特集。ベルメール、四谷シモン、天野可淡、トレヴァー・ブラウンなど。

●ビデオ：**ダムタイプ「OR」**（ユーロスペース）1997年2月から3月にかけてフランス・モーブージュのLe Manegeの協力を得て、現地に一カ月滞在して製作し、同劇場で初演された作品。ビデオ：ダムタイプ「PH」　1990年から1993年にかけて、世界17都市で上演され、高い評価を受けたダムタイプの代表的作品。

●**宮沢章夫「GO GO GIRLIE!」**98年5月に上演された「GO GO GIRLIE!」の台本。遊園地再生事業団ヒストリー全公演記録。宮沢章夫とフリップフラップや緒川たまきとの対談つき。

●**『JU通信・復刻版』**（先鋭疾風社）日本SFの開祖・海野十三（うんのじゅうざ）の記念碑を生まれ故郷の徳島に建てるための会が発行していた機関紙を復刊。中島河太郎による書き下ろしエッセイや新聞記事など貴重な資料を多数収録。限定1000部。

●**「謄写技法」**謄写版（孔版印刷・ガリ版）の研究誌ではないとのことですが、謄写版への愛情溢れる内容。徳島より。これ自体、謄写版で刷られており、凝った装丁も大変ステキ。創刊準備号、創刊号とも限定100部。実は謄写版愛好家でもあるエロ部長松沢推薦。店売りは京都の古書店、萩書房とタコシェのみ。

●月刊**「MOON」**沖縄の若者向け情報誌。沖縄に行く方は一冊どうぞ。

●**和矢『ゲイ生活マニュアル』**（データハウス）初心者向けゲイライフのガイドブック。著者は松沢エロ部長の友達で、本職は占い師。

●現代社会問題研究会**『神戸事件の謎』**（解放社）神戸事件ブックレット・シリーズの総集編。犯人が誰かは別にして、ここで展開される警察批判、マスコミ批判は一聴の価値あり。

●**宇田川岳夫『フリンジ・カルチャー』**（水声社）肉弾漫画から、J.A.シーザー、三上寛、ヨホワ13などのフリンジ・ミュージック、そしてコア・オカルトの知られざる展開まで、異端派知の鉄人が満を持して放つ本格評論。

●**「EATER」**5号　灰野敬二、遠藤ミチロウ、山崎春美、若松孝二、根本敬、佐川一政インタビュー。レーベル紹介は、ＯＺディクス、キャプテン・トリップ。

●**「ワイルド・チンポ」**6号　某レコード会社社員によるミニコミ。ケスケウのシングルCDつき。ケスケウ今昔物語。野沢直子続報など。

●CD：**MERZBOW「PSYCHORAZER」**（首吊りテープ）ご存じ秋田昌美＝メルツバウの新作。ジャケットは丸尾末広の描き下ろし。

●CD／OZディクス：**蔦木家「種の尊厳と個の衝動」**突然段ボール・蔦木兄弟のソロ・シングル、CDを段ボールに入れた特別セット。限定100セット。CD：**湯浅湾「歯のはえたケツの穴」**湯浅学の歌もの作品集。CD：**タグチフミヒト「オレソロ・200」**OZディクス総帥田口史人のソロ。

●CD／ボンバ・レコード：**レジデンツ「25周年記念アルバム」**結成25年の歴史を25曲で追ったコレクション。レア・トラックス多数。レジデンツの代表作**「ミート・ザ・レジデンツ」「コマーシャル・アルバム」「マーク・オブ・ザ・モール」「ザ・チューンズ・オブ・トゥ・シティ」**もCD化。

●CD：**山谷初男＋はちみつぱい「山谷初男の放浪詩集」**（P－VINE）カルト俳優が唄う新宿。詞は寺山修司、曲はあがた森魚と田中未知、編曲はJ.A.シーザー。知る人ぞ知る幻の逸品が遂にCD化。推薦。P－VINEからは他に外道のファースト・アルバムなども入荷。

★今月のフェア

伊藤潤二原画展　7月18日（土）～31日（金）　富江シリーズや双一シリーズでおなじみ、ビッグコミック・スピリッツ連載「うずまき」も好評。カット原画や描き下ろし色紙、グッズなどの販売もあり。

たま祭（仮題）　7月25日（土）～8月31日（月）　夏休み企画、たまのフェア。現在では入手不能のテープやレコード、書籍などを一挙放出。オリジナルTシャツ、メンバーによる絵画や手工芸品までを販売。知久寿焼のツノゼミ、石川浩司のインスタント・ラーメン袋など、コレクションの展示もあり。

8月は逆柱いみりの紀行本発刊に合わせ、新作原画など入荷予定。

TACO ché

中野駅から徒歩4分、ブロードウェイのエスカレーターをあがって
まっすぐ進んでまんだらけ、明屋を越えて右側

タコシェ

〒164-0001　中野区中野5-52-15 中野ブロードウェイ 3F

TEL 03-5343-3010　FAX 03-5343-4010

営業時間 12:00～20:00

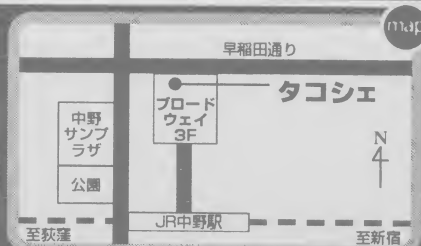
map

早稲田通り
中野サンプラザ
公園
ブロードウェイ 3F
タコシェ
N
JR中野駅
至荻窪
至新宿

新連載

つげ忠男

日本三文死集（にほんさんもんししゅう）

開始。

次号9月号は8月1日(土)発売

定価680円(税込)

1998.8.NO.400

●表紙写真…岡本真菜子
●表紙デザイン…関善之＋星野ゆきお for VOLARE inc.
●背表紙デザイン…羽良多平吉&EDiX
●写植…㈱パルシングオー　●印刷製本…田中製本印刷㈱

CONTENTS

映画ねじ式大特集

コミック 四〇〇号記念号

コラム&インフォメーション

●都合により一部、内容に変更がある場合もありますので御了承下さい。
●今月号の塚本知子先生、小柳千紘先生の作品はお休みさせて頂きます。　●今月の4コマガロは休載させて頂きます。
●表紙に載っている、あさりよしとお先生の新連載は都合により次回以降になりました。ここにお詫び申し上げます。